令和４年度　第３回　会津若松市中小企業・小規模企業　未来会議　要旨

日時：令和４年 12 月 20 日（火）15：00～17：00
場所：生涯学習総合センター（會津稽古堂）研修室３

１　開会

２　協議

会津大学短期大学部　木谷准教授を座長として進行する。

【情報共有】

①最近の状況や課題、各団体の取り組みについて

・会津大学短期大学部の 10 月末の就職内定状況は、前年同期と大きな変化はなし。ゼミ生の就職先は、東京 2 名、会津若松 2 名、仙台 1 名、未定 1 名。地元志向の学生は、公務員を志望する傾向が強い印象だが、ゼミ生の中には、地域活動で知り合った企業を就職先に選んだケースもあり。

・1 年生においても、地元に残りたいと考えている学生はほぼ 100%公務員志望。「地元に残る」＝「公務員」という意識になっており、ほかの業種でも地域に役に立てるという広い視野を持たせることが必要。反対に希望職種が固まっている学生は勤務地にこだわらない傾向。

・コロナ禍以降、はじめて対面で学校祭を実施（11 月）。ただし、参加者は学内に限定。

・起き上がりこぼしプロジェクトのシンポジウムを実施（12 月 10 日）。プロジェクトにおいて、拓殖大学と共同で、金山町のかぼちゃの商品パッケージをデザインした。

・12/3 に開催された「国際女性会議（WAW！）」にて紫翠盃と R+E タンブラーの特設展示を行い、出席者へのお土産にもタンブラーが採用された。復興も含め会津・福島で取り組んでいることを発信できた。12/15 に総理官邸にて報告も行った。

・YouTube や SNS を活用し、ストーリーを明確にした商品紹介に取り組んでいきたい。

・同友会としては、11/16 に政策提言をもとにした会津若松市長を囲む懇談会を実施。また、11/25 には県の経営者交流大会を喜多方で初開催。

・売り上げは回復基調であるが、円安・物価高により仕入れ価格の値上がりで収益を圧迫されている。特に光熱水費。価格を値上げせざるをえない状況だが価格転嫁が難しいところもある。電気代の高騰については一過性のものではなく、来年以降も続く見込みなので長期的な厳しさがある。

・鹿沼相互信用金庫と連携し会津西街道宿場巡りを実施。単発の旅行ではなくリピートして訪れる機会を創出。大人数での旅行からグループ・家族をターゲットにした企画へ移行。

・10 月 6 日（木）より第 17 期目の創業塾を開催した。受講者 8 名（内、女性 4 名）。創業予定業種は飲食業、介護事業、自動車整備業など
・11 月 22 日（火）創業セミナー＋交流会をホテルいづみやで開催した。会津地域における創業者ネットワーク構築に向けた取り組みとして、創業間もない事業者に対し経営に関する悩みや相談や事業者間で気軽に情報交換できるネットワークの構築を目的として、日本政策金融公庫と福島県信用保証協会と連携して創業者の支援を行った初めての合同企画。定員 20 名に対し創業予定者を含む 25 名が参加した。第 1 部の講演会では、先輩起業者として(株)オクヤピーナッツジャパンの松﨑健太郎氏とゲストハウスひとときの佐々木雄介氏が創業後の苦労話や成功事例など話した。第 2 部の交流会では参加者同士の人脈づくりや各支援機関との情報交換など交流を深めた。今後も年 2 回程度開催していきたい。

・９月～１１月はイベント関係の業界が大いに動き出した。
・ただ、どこも人手不足（人員削減）の影響があり、コロナにかかったもしくは濃厚接触となった人員の穴をどう埋めるのかで外注に相談せざるを得ない状況がある。
・イベントの動きでは、まだまだたくさんの人が集まる場所に出ていきたくないという意見も多く、チケット販売には苦労している。
・一方、入場制限をした状態ではこれまでのような利益を見込めず、やむを得ずチケット料金を高くする傾向がある。しかし、これまでのような金額に戻したいと考えている業界人は多い。そのためにも、感染対策をしっかりとしたうえで１００％の動員を目指したいという動きがある。
・ホテルの予約状況から察するに、観光客はかなり増えているように感じる。飲食店の利用者も地元よりも観光客需要がある店舗の方がお客さんは来ているようである。
・プレミアム商品券は昨年度より飲食店では使われていない印象。原油・物価高により生活必需品の購入が多い？
・コロナの感染者拡大に対する反応は、これまでと比べてかなり分散してきている。（従来のように増えたら様々なものに制限をかけるところと、しっかりと感染対策をしたうえで、これまでよりも厳しくは制限しない団体・企業で別れている。）
・会津青年会議所では、１月５日に新年会を従来通りに開催する予定で進めている。
・その他、事業に関しても、感染対策はもちろん講じるが、極力、コロナ禍でできなかったことをできるような事業を構築していく動きになっている。（人と会う、リアルでの体験など）
・イベント業界や所属団体では、コロナの影響は少なからず受けているが、どうやって従来の活動に戻していけるかが課題である。
・コロナ前と同じにするのではなく、新しい形で、地域の活性であったり、エンタメ業界を盛り上げるような仕組み作りが求められていると感じる。

・イベントでも、地区の行事でも、無尽のような横のつながりでも、コロナ禍により希薄になってきたものは、コロナが落ち着いても自然と元に戻ることはないと思うので、それを関係者が残すのか、新しいものに置き換えていくのかが今後の経済活動や地域の活性にも大きく影響してくるだろうと考える。
・前回時に話題に挙がった休校時の給食納品業者への対応について、事務局より説明。
⇒コロナ禍に限らず、地域間・学区間の繋がりで対応できるようになれば尚良い。

・旅館・ホテル業は全国旅行支援で好調（あまり恩恵を受けていないところもある）だが、人手不足が解消されていないうえに旅行支援の事務手続きが煩雑。同じ旅客運送業は、全国旅行支援で観光客は増加したが、バス利用の団体旅行は増えていない。
・総合スーパーなどを含む各種小売は、自宅内消費やコロナ感染増加による医療系商品（検査キットなど）、プレミアム商品券などの影響もあり好調。自動車販売は、生産の鈍化や納車期間の長期化などで好調とはいえない。修理や中古車販売に注力している。
・建設業は民間の住宅建設関連、特にリフォームなどの内装工事が好調。しかし、資材・原材料・燃料価格の高騰、人件費の高騰、人材不足などによる悪影響が続いている。
・団体において 11 月 1 日議員改選（任期 3 年）があり、6 企業が代替わり。
・全国の消費税インボイス制度の発行事業者登録は法人 60.5%、個人企業 14.9%で、特に個人の低調が続く。11 月に開催した個別登録相談会は 2 日間で 13 事業所。12 月 23 日開催予定のインボイス制度対策セミナーはすぐに 30 名定員となったため、1 月にも開催することにした。制度について、「自分は関係ない」と思っていた事業者が多い。建設関係の個人事業主や飲食店経営者などで申し込みが増えている。
・年末の資金需要は予想より少ない傾向だが、金融機関によっては相談は前年より増えている。
・小規模事業者持続化補助金第 9 回受付分 4/5 採択。

②高校生（大学生）との連携について
【葵高校（葵ゼミ・美術工芸部）】
・コアメンバーが「会津漆器を手掛ける企業の支援のもと伝統工芸の在り方を考えるプロジェクト」を担当。
・会津木綿の端切れを利用した紫翠盃製作
・漆を用いた鶴ヶ城トイレ案内板製作の支援
【慶応義塾大学大学院】
・紫翠盃製作→学生生協での販売

〇所感

・大変ではあったが、興味がある生徒にとっては、若いときから企業と関わり勉強できることはうらやましい。
・会津木綿の端切れを利用した紫翠盃は SDGs そのもののような取り組みであり、不用品として捨てていた端切れを譲ってもらうのではなく、購入したことにより業者の売上にもつながり、新たな循環が生まれた。
・トイレ案内板については、高校生発信というストーリー込みの提案を関係機関に行い実現できたことは喜ばしいことであり、企業と連携した取り組みならではのこと。
・大学の学生生協での販売により、新たな販路開拓となった。
・高校生に地域の文化・製造・サービスなどの魅力を感じてもらうことは重要なこと。

☞今後の関わり方については、現時点では未定だが、葵高校が募集している「葵高校サポーター」に未来会議として登録し、幅広い分野での支援や連携を検討していく。

③セミナーの総括及び今後の方向性

前回挙がった意見をまとめ、事務局よりキーワード及び提案のたたき台について説明し、提案すること、提案内容、発信方法などについて意見を聴き取る。

◆主なキーワード

「参加のハードルを下げる」「遠くの出来事ではなく身近な成功例」
「人材確保と育成」「若者の流出を避けるために各団体・各企業がやるべきこと」
「デジタル化」「１社のみではなく団体として取り組む」
「発信力」「魅力の創出」
「未来会議ならではのテーマ」

◆未来会議からの提案

〇開催について
・講演だけではなく体験を取り入れ、五感を使ってテーマを実感してもらう。
・講演で学んだことを参加者と共有できる時間を取り入れる。
・開催の目的は、広めたいテーマがあるのか、参加してほしい層がいるのか、優先順位を明確にする。
・参加を想定する層に適した広報周知を行う。
・大きく見えるテーマだとしても、身近な成功例を挙げてハードルを下げる。
・参加者が一歩踏み出せるような事例や取り組みを紹介し、継続の機会を提供する。
・主催の事業所・団体ならではのテーマ・講師で企画する。

〇参加について
・自社のみでは機会を得られないような、テーマ・講師の話を無料（安価）で聴くことができる。事業主自身だけではなく、社員も積極的に参加させ、学び・気づきの機会を提供する。
・自身の業務内容と小さなことでも共通点を見出し、参加して終わりではなく、活用できることを見つける。
・紹介していた事例や取り組みなど、些細なことでもとりあえず試してみる。
・参加者だけで完結させるのではなく、社内で共有し会社の財産とする。

◆出席者からの意見
・開催者向けと参加者向けで提案を分けてもいいのではないか。
・発信方法については、まずは市の媒体を活用するのが効果的では。
・未来会議内において情報共有を行い、共通の課題を話し合ったり、セミナーを開催したりするだけではなく、取り組みの結果を周知していくことも重要。

☞事務局にて、1 月中に高校生とのかかわりを含んだ提案内容を具体的なレイアウトに落とし込み、内容について各メンバーから意見を聴き取り、2 月の第 4 回未来会議にて協議いただくこととする。

令和４年度
会津若松市中小企業・小規模企業未来会議　コアメンバー

所属・企業名		役職	氏名（敬称略）	備考	第3回出欠
会津大学短期大学部　産業情報学科		准教授	木谷　耕平		出
中小・小規模企業者	（株）cluster	代表取締役	齋藤　英宣	会津若松商工会議所推薦	出
	古川プラスチック	代表	古川　孝治	あいづ商工会　推薦	欠
	（株）三義漆器店	代表取締役	曽根　佳弘	県中小企業家同友会会津支部　推薦	出
	ＴＡＫＬＡＭ	代表	遠藤　和輝	公益財団法人会津青年会議所　推薦	出
支援機関	会津若松商工会議所	企業振興課課長	吉田　浩		出
	あいづ商工会	事務局長	白川　浩二		欠
	福島県中小企業団体中央会　会津事務所	所長	堀　和弘		欠
	会津信用金庫	本店営業部長	渡部　勝敏		出
	会津商工信用組合	融資部地域支援課課長補佐	藤巻　正義		出
会津若松市観光商工部商工課		課長	櫻井　恭子		出